



会津果樹情報第4号

☆「りんご」、「かき」は肥大が大きく推移しています。☆

☆「ぶどう」は収穫期が早まっています☆

令和8年8月26日

福島県会津農林事務所 農業振興普及部
(TEL 0242-29-5307)

J A会津よつば あいづ西部営農経済センター

1 気象概況及び予報

表1 月別気象表 (会津若松市)

月	半旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比 (%)	本年	平年	平年比 (%)
8	1	25.1	26	-0.9	30	31.7	-1.7	20.9	21.5	-0.6	2.5	20	12.5	27.2	34.4	79.1
	2	26.8	25.9	0.9	34.3	31.6	2.7	21.6	21.4	0.2	47.5	19.8	239.9	42.9	33.8	126.9
	3	25.2	25.5	-0.3	28.9	31.2	-2.3	22.1	21.2	0.9	6.5	21.8	29.8	19.6	32	61.3
	4	26.4	25.1	1.3	32.5	30.7	1.8	21.3	20.8	0.5	0	22.8	0.0	35.1	30.7	114.3
	5	20.9	19.7	1.2	25.4	24.2	1.2	17.9	16.3	1.6	11.5	18.8	61.2	20.7	23.7	87.3
平均・合計		24.9	24.4	0.4	30.2	29.9	0.3	20.8	20.2	0.5	68.0	103.2	65.9	145.5	154.6	94.1

会津若松市の8月1～5半旬の平均気温は24.9℃(平年比+0.4℃)でほぼ平年並、降水量は68.0mm(平年の66%)で平年より少なくなりました(表1)。

東北地方の1か月予報(8/22～9/21)によると、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高い見込みです。降水量と日照時間は平年並の見込みです。

2 生育概況 (会津若松市)

(1) モモ

ア 収穫期・果実品質調査結果

会津若松市神指町では、「あかつき」の収穫盛が、平年より7日早い7月25日、収穫終が平年より2日遅い8月12日となりました。収穫時期に連続した降雨があり、果実の大きさは平年より大きくなりましたが、糖度は平年より低くなりました。

イ モモせん孔細菌病

モモせん孔細菌病の発生は、近年少なくな推移していましたが、本年はまとまった降雨が多く、発生が多い園地が散見されます。秋期防除を徹底しましょう。

3 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り・マルチ

草生園においては樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょう。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、**土壌水分の保持**に努めましょう。

※地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の**約半分**となります。

ウ 病虫害防除

収穫前日数には特に注意し、使用濃度や使用回数等の農薬使用基準を十分に確認し、間隔が空きすぎないように注意して使用しましょう。

(2) リンゴ

ア 早生種の収穫前管理

気温が高く経過した場合は、日焼け果の発生が多くなるため、葉摘みは日焼けの発生状況を確認しながら数回に分けて行いましょう。

落果防止剤は、収穫開始予定日を考慮し、農薬使用基準に十分注意して使用しましょう。

イ 早生種の収穫

今後、気温が高温で推移する場合、果肉の軟化が懸念されます。気象の推移に注意しながら着色や果肉硬度に注意して適期収穫を心がけましょう。

ウ ハダニ類

高温乾燥が続く場合は多発する恐れがあります。なお、ダニ剤の散布は、効果を高めるために**草刈り後、数日おいてから実施**しましょう。

(3) カキ

ア 新梢管理

今年は降水量が多く推移しているため、新梢の発生が多くなっています。9月にかけて複数回に分けて新梢管理を実施してください(一度にせん除すると日焼け果の発生や枝の二次伸長を招く恐れがあるので注意してください)。

イ カメムシ類

園内での成虫の飛来状況をよく観察し、多数の飛来を確認した場合は、早急に殺虫剤を散布してください。

(4) モモ

ア 秋季せん定

若木や強勢樹で新梢の二次伸長が見られる場合には、樹勢に応じたせん定を行いましょう。

樹勢が強く徒長枝の発生が多い強勢樹では、9月中旬頃(徒長枝が太る前)を目途に収穫が終了した品種から秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋期防除における薬液透過の改善を図りましょう。

適勢樹では、主枝や亜主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹形の乱れを防ぎましょう。弱勢樹では、秋季せん定を実施しないか最小限とし、葉芽の多い中果枝や

長果枝を多く配置することで、樹勢の回復を図りましょう。また、若木では適勢樹と同様の方法で行いましょう。

特に、幼木から若木では冬季せん定が強せん定になると寒凍害を引き起こしやすいため、夏季の新梢管理で残した主幹部の強勢な枝は秋季せん定時に整理し、冬季に大きな切り口を作らないように注意しましょう。

また、モモせん孔細菌病の罹病葉が多く見られる場合には、樹形を乱さない範囲で枝をせん除し、菌密度の低減を図ることも効果的です。その際には、秋期防除実施前に秋季せん定を行い、薬液の到達を妨げる枝は除去するなど、防除効果を高めるよう工夫しましょう。

イ モモせん孔細菌病

降雨により感染が拡大しやすくなります。被害枝・葉・果実は見つけ次第速やかに除去して適切に処分しましょう。

越冬伝染源の密度を低くするため、秋期防除（銅剤）は3回、確実に実施しましょう。

（5）ブドウ（収穫前管理）

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房数によって異なりますので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫時の留意点

- a 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪い傾向にあります。収穫前の2～3日が晴天で、当日も晴れている日に収穫するように心がけましょう。
- b 収穫は、日持ちを向上させるため果実温度の低い早朝などに行いましょう。
- c 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いので、優先して収穫しましょう。
- d 果粉を落とさないため、収穫果実は穂軸を持ち、果粒に直接触らないように注意しましょう。

〇高所での作業、熱中症に気をつけましょう！

〇近年、農業災害が多発しています。農業保険（農業共済・収入保険）に加入しましょう！

〇会津若松市でクマの目撃が相次いでいます。朝夕、1人で園地に行かないようにしましょう！

〇収穫残渣は、クマが電気柵内に入ろうとするきっかけになります！

園地に放置せず、適正に処理（一か所に集めて埋める、柵で囲う等）しましょう！

